モスソガイ　*Volutharpa perryi* (Jay)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底にすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は 1960 年代には普通種であった（愛知県科学教育センター, 1967）が、1990 年代には三河湾湾口部のたこつぼ漁等で生貝が比較的普通に採集されていた。その後、個体数が激減し、知多半島伊勢湾側から三河湾湾口部のドレッジ調査では死殻もほとんど採集できなかった（木村, 2000）。近年、伊勢湾湾口部から渥美外海で操業される底引き網漁業で混獲されるようになったが、引き続き将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

上段: 伊勢湾湾口部(勢水丸ドレッジ水深 20 m), 2014 年 12 月, 下段: 南知多町篠島沖(蛸壺漁水深 10 m), 1994 年 12 月, 木村昭一採集

【形　態】

殻長約 40 mm の卵形で、殻は薄く厚い殻皮で覆われる。殻口は大きいが蓋は革質で非常に小さく退化的で、蓋を持たない個体もある。青森から北海道にかけては食用種として漁獲されているが、県内の個体群より遙かに大型である。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように潮下帯より 1990 年代には、比較的多くの生貝が採集されたが、ほとんど生貝が採集されない期間を経た後、近年回復傾向が認められる。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。瀬戸内海以北北海道まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような生息環境の悪化のほか、本種もバイ（堀口, 1998）の様に防汚剤に含まれている有機スズ化合物（現在は製造禁止）によるインポセックス（雌の雄化）により個体数が減少した可能性もある。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

本種は、房総半島以南では主に内海（三河湾、伊勢湾、瀬戸内海）に分布する。本種も稲葉（1982）が東北・北海道型と定義した、「内海が太平洋側の分布限界であり、外海では生息し得ないが、低温・低塩分の内海に生息している貝類群集」に含まれる種と言えるかも知れない。生息水深帯がやや深く、モニタリングが困難な事もあり、国のレッドデータブックには掲載されていないが、上述した内海の個体群については、今後絶滅危惧個体群とすることも考慮するのが望ましい。

【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.
堀口敏広, 1998. インポセックス 巻貝類における雌の雄化現象. 海洋と生物, 117: 283–288.
稲葉明彦, 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 向島.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18–20.

（木村昭一）